**校 長 藤井　雅乗**

**平成31年度 学校経営計画及び学校評価**

１　めざす学校像

|  |
| --- |
| **・笑顔きらめく 元気な学校**  児童生徒の人権教育を推進し、教員の人権意識を高める。  **・君の得意を見つけ　伸ばそういいところ**  「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」に基づき、保護者や関係機関と連携して教育活動を展開する。  基礎的･基本的な事柄を大切にし、達成感を積み上げることで、児童生徒の自己肯定感･自尊感情を育てる。  **・つながる心 つなげよう未来へ**  児童生徒会活動、学校間および居住地校を通して、同年齢･異年齢間の交流を図る。  児童生徒の社会的･**職**業的自立に向け、小学部段階から個々の発達に応じたキャリア教育を進める。  **これらを三本柱として教職員・保護者・地域の方々がひとつになり、すべての児童生徒を、社会で自立して生きる人として育てる学校をめざします。** |

２　中期的目標

|  |
| --- |
| ２.中期的目標  　１．安心・安全の教育を進める学校  　　(１) 人権教育の充実  ・児童生徒の個人情報保護と管理についての意識を高める。  ・人権を大切にし、不適切な言動を見過ごさない環境づくりに努める。  　　(２) 校内支援の活性化  　　　　　・校内での支援が必要なケースへの、支援部の積極的な関与を促進する。  　　　　　・不登校生徒への支援の充実を図る。  　　(３) 危機管理体制の充実  　　　　　・防災マニュアルに基づいた教職員の連絡・参集・配備体制を周知徹底する。  　　　　　・熱中症予防対策を促進する。  ・個人情報保護管理、食物アレルギー対応等、危機管理に関するマニュアルの点検および周知徹底を図る。  　２．子どもにとって「いい授業」を追求する学校  　　(１) 授業改善と授業力向上  　　　　　・「摂津支援の授業スタンダード」に基づいた授業改善と授業力向上を促進する。  ・「指導略案」の活用を促進し、授業におけるPDCAサイクルを機能させる。  ・教員間の授業見学を促進する。  　　(２) 初任者等の育成  　　　　　・「育成支援チーム」が中心となり、初任者等の支援および育成を行う。  　３．地域で学び、地域とともに育つ学校  　　(１) 卒業後を見据えた学習  ・居住地校および学校間交流の促進と発展に努める。  ・小中高と連続性のあるキャリア教育を継続し、発展させる。  ・余暇活動を見据えた課外クラブ活動の充実を図る。  　　(２) 地域に根ざした交流活動  ・地域行事等への積極的な参加を促進する。  　　(３) 情報発信する地域センター校  ・地域の学校への巡回相談および研修活動を充実させる。  (４) 学校運営協議会  　　　　　・助言および提言を受けて課題の解決に取り組み、教育の質の向上に努める。    　４．組織力の向上  　　(１) 分掌長・主任等の交替を促進する。  　　(２) 学校会計事務についての全教職員の理解を促進する。  　　(３) 一斉退勤日のさらなる定着を図る。 |

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

|  |  |
| --- | --- |
| 学校教育自己診断の結果と分析［平成３１年　月実施分］ | 学校運営協議会からの意見 |
|  |  |

３　本年度の取組内容及び自己評価

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 中期的目標 | 今年度の重点目標 | 具体的な取組計画・内容 | 評価指標 | 自己評価 |
| １ 安心・安全の教育を進める学校 | (１)人権教育の充実  ①人権問題対応委員会を中心とした人権教育  ②個人情報管理委員会を中心とした人権教育  (2)校内支援の活性化  ①校内支援についての理解推進  ②校内支援の充実  ③不登校生徒への支援  ④虐待の早期発見と対応  (3)危機管理体制の充実  ①引きつぎ訓練の実施  ②非常配備体制等の周知徹底  ③熱中症予防への対策  ④危機管理に関するマニュアルの視覚化  ⑤遊具等の安全点検の実施 | ・体罰、ハラスメント防止等の研修会を実施し、児童生徒への関わり方や同僚との関係の取り方について理解を深める。（→人権問題対応委員会、全員）  ・いじめの予防、および早期発見に努める。  （→人権問題対応委員会、全員）  ・個人情報保護と管理に関する研修会を年間2回（年度当初と中頃）行い、教職員の意識を高める。（→個人情報管理委員会、全員）  ・個人情報チェックリストの見直しと改善を行う（→個人情報管理委員会、全員）  外部関係機関との連携等、校内支援の流れや具体的事例についての研修会を、年度当初に行って全教職員の理解を深め、校内支援の活性化をめざす。（→支援部、全員）  専門性の高い自立活動の指導を行うため、福祉医療関係人材による指導時間を増やす。  （→支援部、全員）  早期から働きかけていくための支援方法を検討し体制を整えていく。（→支援部、全員）  児童生徒の安全第一に、虐待の早期発見に努め、外部関係諸機関と連携して取り組む。  （→支援部、全員）  ９月５日（木）に実施する。（→防災委員会・指導部・全員）  「災害時対応マニュアル」および「教職員防災必携」を周知徹底する。（→防災委員会、全員）  熱中症防止マニュアルを周知し、活用する。（→保健部、全員）  食物アレルギー対応マニュアル等、危機管理に関するマニュアルの実施方法を映像化し全教職員への周知徹底を図る。（→当該分掌、全員）  小学部中庭の遊具を中心に、児童生徒が使用する器物の安全点検と、必要に応じて補修を行う。（→教頭、事務） | ・研修会を実施することができたか。学校教  育自己診断の「人権尊重」肯定率が90%以  上を維持できたか。（Ｈ３０：98％）  ・学校教育自己診断の「先生はいじめなど困っていることがあれば助けてくれる」についての児童生徒の肯定率を、前年度の85%より増やすことができたか。  ・管理状況を係が定期的にチェックできた  か。また、本校の規定どおりに管理できたか。  ・チェックリストについて、検討し改訂することができたか。  体罰防止のためのチェック項目「コーディネ  ―ターを中心とした相談支援体制について理解している」の×の数を、前年度より減らすことができたか。  前年度の指導時間より増やすことができた  か。（Ｈ30：71時間）  高等部で登校支援チームを立ち上げ、検討することができたか。  児童生徒の変化等を早期に把握し、校内および外部関係諸機関と連携して取り組むことができたか。  本校の「災害時対応マニュアル」および「保  護者向け災害時対応マニュアル」に則って計  画通りに実施することができたか。  「災害時対応マニュアル」および「教職員防災必携」の内容について周知徹底することができたか。  マニュアルに基づき、児童生徒の安全に留意した学習活動を行うことができたか。  映像化したものを作成し、年度当初の研修で全教職員が視聴することができたか。  遊具点検の専門業者による安全点検を実施し、診断結果に応じた補修を行うことができたか。 |  |
| ２ 子どもにとって「いい授業」を追求する学校 | (１)授業改善と授業力向上  ①「摂津支援の授業スタンダード」の周知  ②「指導略案」の活用を促進  ③公開授業週間の活性化  (２)初任者等の育成  (３)研修の充実 | 年度当初に、授業を実施する際の基本として「摂津支援の授業スタンダード」を周知するための研修会を行う（→首席等連絡会、全員）  授業の振り返りを、サブ教員が指導略案に書いて主担教員に渡すことでPDCAサイクルを機能させ、授業力向上につなげる。（→研究研修部、全員）  実施する週を学部ごとに設定するなど、見学しやすい条件設定を工夫し、一人が２つ以上の授業を見学するように働きかける。（→研究研修部、全員）  育成支援チームが中心となって研修や授業研究を行い、初任者等を育成する。  （→育成支援チーム、初任者、全員）  発達障がいの指導等に関する外部講師による研修を行い、教職員の専門性を向上する。（→研究研修部、全員） | 研修会を実施し、周知することができたか。  サブ教員から主担教員にフィードバックすることを定着させることができたか。また、フィードバックの件数を、前年度より増やすことができたか。（Ｈ30：１４件）  全教職員が授業見学することができたか。  「初任者育成プログラム」を作成し、実施することができたか。  「体罰防止のためのチェック項目」の項目４  「様々な障がいを理解するための教職員研修に参加している」について、前年度より×の数を減らすことができたか。 |  |
| ３ 地域で学び、地域とともに育つ学校 | (１)卒業後を見据えた学習  ①居住地校交流の促進  ②学校間交流の充実  ③中学部の課外クラブ実施  ④中学部の自主通学の実施  ⑤高等部卒業生の適切な進路選択と決定  ⑥連続性のあるキャリア教育の継続と発展  ⑦本物に触れる  ⑧国際理解教育の推進  (２)地域に根ざした交流活動  ①地域行事への積極的な参画  ②地域の方々とともに学ぶ  ③情報発信  (３)情報発信する地域センター校  地域支援の充実  (４)学校運営協議会 | ・保護者に働きかけ、希望者を増やす。  ・相手校とのより良い関係づくりに努める。（→支援部、全員）  小中高各学部での学校間交流を継続、発展させる。（→支援部、全員）  希望する中学部生徒について、課外クラブを実施する。（→指導部、中学部）  希望する中学部生徒について、自主通学を実施する。（→指導部、中学部）  生徒の実態に応じ、企業就労を広く視野に入れたキャリア教育を行う。（→進路部、高等部）  あいさつ・清掃などキャリアに関する交流を学年および学部間で行う。（→指導部、全員）  相撲力士など、プロフェッショナルを外部講師として招聘し本物に触れる機会をつくる。（→各学部）  外国人講師による授業を行い、異文化や自国の文化についての理解を深める。（→各学部）  地域行事への参画の継続と促進、および児童生徒の参加を促進する。（→支援部、全員）  地域の方を講師とする交流授業を行う。  地域の方々も参加できる公開講座を行う。（→首席等連絡会、支援部、全員）  保護者および児童生徒向けに「摂津支援だより」を定期的に発行する。（→教頭）  ホームページの充実を図る。広報誌を発行し地域に情報を発信する。（→総務部情報Ｇ、全員）  地域支援事業で要請された巡回指導を受けるだけでなく、市教育委員会や支援学級担任研究会を通じて、本校より積極的に研修活動や巡回相談を申し出ていく。（→支援部）  学校運営協議会の助言・提言、および学校教育自己診断の結果を受け、できるだけ速やかに学校課題の改善を行う。（→全員） | ・実施回数を平成30年度より増やすことができたか。（Ｈ30：２４回）  ・相手校の担当教員と話し合いながら進めることができたか。  相手校にて事前学習を行えたか。行事だけでなく、授業交流もできたか。  計画通りに実施することができたか。  マニュアルに則って実施することができたか。  就職希望者の就職率を100%にすることができたか。  あいさつ・清掃などキャリアに関する交流を全学年で実施できたか。  外部講師による授業および交流会を実施することができたか。  外国人講師による授業を行うことができたか。  新たに参加する児童生徒を増やすことができたか。  地域の方々との交流授業および公開講座を企画し、実施することができたか。  各学期に2回、発行することができたか。  ホームページを行事終了ごとに更新できたか。府民が求める情報を適時、掲載できたか。広報誌を定期的に発行できたか。  本校が企画する研修を実施することができたか。巡回相談件数を、前年度より１０%増やすことができたか。  保護者向け学校教育自己診断における肯定率90%の項目がＨ30の結果である22項目より増やすことができたか。 |  |
| ４ 組織力の向上 | ①組織の活性化  ②風通しのよい職場づくり  ③校内での情報伝達経路の明確化  ④ヒヤリハットの分析と活用  ⑤一斉退勤日のさらなる定着  ⑥学校会計事務の理解促進 | 分掌長、主任等の交替を促進する。同じ教員が継続して3年以上就いている部署を優先的に刷新していく。  アサーショントレーニングに関する研修を行い、教職員同士が自由に意見交換できる雰囲気づくりに努める。（→労働安全衛生委員会、全員）  学部内での情報伝達の経路を、学期始めに確認し、必要な情報が管理職に素早く伝達されるようにする。（→全員）  挙げられた報告をもとに問題点を分析して改善方法を周知し、次につなげていく。  （→首席、全員）  毎週火曜日を一斉退勤日とし、衛生管理者が中心となって19時退勤の周知に努める。（→労働安全衛生委員会、全員）  学校会計事務について全教職員向けの研修を行い、理解を促進する。（→首席等連絡会、事務、全員） | 分掌長、主任等の交替を行うことができたか。  研修会を実施することができたか。体罰防止チェックリストの「教職員どうしで率直に、自由に意見交換するよう心がけている」の×の数を前年度より減らすことができたか。（Ｈ30：13）  体罰防止のためのチェック項目「校内での情報伝達経路（報告・連絡・相談）を理解している」の×の数が前年度よりも減ったか。（Ｈ30：９）  体罰防止チェックリストの「教職員のヒヤリハットを整理・蓄積・分析し、活用している」の×の数が前年度より減らすことができたか。（Ｈ30：７）  保護者に周知し、一斉退勤日を実効あるもの  にすることができたか。  研修会を実施することができたか。 |  |